

平成 28 年度「逗子市学習状況調査」の分析結果(中学校)

〇はじめに

平成 28 年 4 月 19 日に「逗子市学習状況調査」が行われました。この調査は、逗子市の生徒の学習状況を把握・分析し、各学校の指導方法の工夫・改善および生徒の学習に役立て、市として必要な施策の策定に資するために行われたものです。実施内容は、市内中学校 2 年生を対象とし、国語、社会、数学、理科、英語の 5 教科で、神奈川県調査問題をもとに行われました。この分析結果を踏まえ、各学校において今後の指導方法の工夫と改善を図り、本市において教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るよう努めたいと思います。

なお、ここでいう学力とはこの調査で測ることができた学力の一部であり、子どもたちの持つ学力全てを示すものではありません。

〇実施状況

- | | |
|-----------------|---------------------------|
| (1) 調査実施日 | 平成 28 年 4 月 19 日 (火) |
| (2) 実施教科 | 教科に関する調査 (国語、社会、数学、理科、英語) |
| (3) 実施学校・学年・調査数 | 逗子市立中学校 2 年生 359 名 |

〇逗子市調査結果の概要 (小学 5 年生)

各教科の調査結果について以下に示す。正答率では、国語が最もよく 68.8%と高い数値を示している。英語、数学、社会では、それぞれ 66.7%、53.5%、50.3%となっており、理科については 47.8%と最も低い数値となっている。

表 各教科の調査結果 (正答率)

教科	調査生徒数	平均正答率
国語	359 名	68.8%
社会	358 名	50.3%
数学	357 名	53.5%
理科	357 名	47.8%
英語	357 名	66.7%

国語

- ・国語は、調査生徒数 359 人にて実施をした。その結果、平均正答数 15.8 問、平均正答率が 68.8%、平均正答率が 60%以上の生徒は全体の約 7 割を占めている。
- ・観点別の平均正答率については、「書く能力」（設問 1 問）が 59.5%、「読む能力」（設問 12 問）が 61.4%、「言語についての知識・理解・技能」（設問 10 問）が 78.6%と概ね良好な結果となっている。
- ・「書く能力」の設問について平均正答率を見ると『条件作文』に関する問題が 59.5%となっており、苦手とする生徒がまだある程度いることから、もっと多くの生徒に理解を高めてもらう必要がある（問四）。
- ・「読む能力」については、『文脈における語句の意味の理解』は 89.7%と高い正答率になっている（問二（1））。一方『登場人物の心情把握』については 46.8%となっており、場面の展開や登場人物などの描写や会話を注意して読み、その場面における心情を理解することを苦手としている生徒が多いことがわかる。（問二（3））。
- ・「言語についての知識・理解・技能」については、『漢字の読み』が 88.6%以上とそれぞれ高い正答率となっている（問一（1））。一方『主語と述語、修飾語と被修飾語』は 54.0%と低く、文節どうしの関係として、修飾・被修飾、主・述の関係を理解しているかどうかをみることを苦手としている生徒が多いことがわかる。（問一（4））。

調査結果を踏まえた指導の工夫・改善

書く能力について	○授業では、一人ひとりの生徒が自分の考えを具体的にもつことができるように指導することが大切です。そのためには、魅力ある教材（題材）の設定、個に応じた指導、考える時間の確保などに留意することが求められます。また、文章の中の自分の考えや気持ちについての根拠が明確に書かれているかどうかを常に吟味するように指導しましょう。（問四）
読む能力について	○普段の授業から、場面の展開に注意しながら、登場人物の性格や心情の移り変わり、行動描写、情景描写の意図などについて、叙述に即して考えられるよう、指導の工夫・改善を継続することが大切です。（問二（3））
言語についての知識・理解・技能について	○文の成分は、中学校 1 年生で学習しますが、「主語と述語」については小学校低学年から、「修飾と被修飾」については中学年から扱っている事項です。小・中の連携の面からも、小学校での具体的な指導、取組について把握した上での継続した指導が望まれます。文の基本となる骨組みを確実に読み取る力、また日常生活における話の中心を聞く力の育成のために、文法の時間だけではなく、国語の授業における文章や、日常の発言の機会をとらえて主語と述語を中心とした言葉の成分を意識させる工夫が必要です。（問一（4））

社会

- ・社会は、調査生徒数 358 人にて実施をした。その結果、平均正答数 14.6 問、平均正答率が 50.3%、平均正答率が 60%以上の生徒は全体の 3 割程度にとどまった。
- ・観点別の平均正答率については、「社会的な思考・判断・表現」(4 設問)が 53.6%、「観察・資料活用の技能」(5 設問)が 46.6%、「社会的事象についての知識・理解」(20 設問)が 50.5%と一部の結果を除き概ね良好な結果となっている。
- ・「社会的な思考・判断・表現」の各設問について平均正答率を見ると、『世界の様々な地域』に関する問題が 81.0%と多くの生徒に理解されている(問二(3))。一方『中世の日本』に関する問題の一部では 17.9%となっており、建武の新政が 2 年半で崩れた理由について知識をもち活用することを苦手とする生徒が多いことがわかる(問六(3))。
- ・「観察・資料活用の技能」については、『古代までの日本』が 74.9%と高い正答率となっている(問四(5))。一方、『世界の地域構成』の一部の設問については、12.0%と低くなっており、地図の特色を理解して、位置に関する基本的な知識を身につけることを苦手とする生徒が多いことがわかる(問一(4))。
- ・「社会的事象についての知識・理解」については、『世界の地域構成』が 78.8%と高くなっている(問一(3))。一方『中世の日本』に関する問題の一部では 27.1%となっており、中世において、団結を強めた農民が荘園領主や守護大名にも抵抗するようになり、町幕府を動揺させたことを理解できていない生徒が多いことがわかる(問六(4))。

調査結果を踏まえた指導の工夫・改善

社会的な思考・判断・表現について	○後醍醐天皇と御家人との関係を、鎌倉時代の将軍と御家人の関係を比較しながら、考察させることが有効です。(問六(3))
観察・資料活用の技能について	○目的に応じた様々な地図があることを取り上げ、実際の形状に近い地球儀と、方位、距離、陸地の形状を比較する学習葛生を取り入れることが有効です。(問一(4))
社会的事象についての知識・理解について	○当時の人々の生活の様子を理解するうえで、資料を活用して調べたり、考察することは、歴史の学習が深まり有効です。(問六(4))

数学

- ・数学は、調査生徒数 357 人にて実施をした。その結果、平均正答数 16.0 問、平均正答率が 53.5%、平均正答率が 60%以上の生徒は全体の 5 割弱を占めている。
- ・観点別の平均正答率については、「数学的な考え方」(6 設問) が 42.5%、「数量や図形などについての技能」(14 設問) が 54.0%、「数量や図形などについての知識・理解」(10 設問) が 59.3%と一部を除き概ね良好な結果となっている。
- ・「数学的な考え方」の各設問について平均正答率を見ると、『関数関係』に関する問題が 65.0%と比較的多くの生徒に理解されている(問四(3))。一方、『一次方程式の利用』についての回答は 3 割台と低く、具体的な事象について、方程式をつくり、答えを求めることが苦手な生徒が多いことがわかる(問三(5))。
- ・「数量や図形などについての技能」については、『減法』に関する問題が 85.4%、『加法と減法』に関する問題が 84.6%と多くの生徒に理解されている(問一(1)(2))。一方、『三角錐の体積』に関する問題では 12.5%となっており、立体の体積の算出を苦手とする生徒が多いことがわかる(問六(3))。
- ・「数量や図形などについての知識・理解」については、『回転体』に関する問題が 90.2%と多くの生徒に理解されている(問六(2))。一方、『回転移動』に関する問題では 30.3%となっており、図形の回転移動が回転の中心の位置及び回転角の大きさで回転の向きによって決まることを理解できていない生徒が多いことがわかる(問五(2))。

調査結果を踏まえた指導の工夫・改善

<p>数学的な考えについて</p>	<p>○文字式を用いて数量の関係を表したり読み取ったりすることの学習と結びつきませす。また、方程式を解いたあとに、その解が、その問題にあっているか調べる必要があります。このことは方程式を作るときに表現しきれなかった条件を、題意と照らし合わせて確認することを意味しています。このように目的に応じて結果を検討し、処理する態度を育てることが重要です。(問三(5))</p>
<p>数量や図形などについての技能について</p>	<p>○三角錐の4つの面のうちどの面を底面ととらえるか、そのときの高さはどこにあたるのか、与えられている長さの内どれを使えば体積が求められるか考えることが必要です。実際に立体を作ったり、観察したり、それを用いて説明したりする活動を充実させましょう。立体を平面上に表す方法として、見取図、展開図、投影図などがありますが、生徒が見取図の特徴をふまえ、正しく情報を読み取ることができるようにしましょう。立体をイメージさせる手立てとして、ICTを積極的に活用しましょう。(問六(3))</p>
<p>数量や図形などについての知識・理解について</p>	<p>○授業では、始めはマス目入りの用紙を使い、徐々にマス目なしの用紙で、定規やコンパスを使っての作図に慣れさせましょう。また、合同な図形の敷き詰め模様を観察することによってその中に二つの図形がどのように移動によって重なるか調べたり、一つの図形を基にしてそれを移動することによって、敷き詰め模様をつくる活動を取り入れる工夫をしましょう。(問五(2))</p>

理科

- ・理科は、調査生徒数 357 人にて実施をした。その結果、平均正答数 18.6 問、平均正答率が 47.8%、平均正答率が 60%以上の生徒は全体の 3 割程度にとどまった。
- ・観点別の平均正答率については、「科学的な思想・表現」(9 設問)が 46.0%、「観察・実験の技能」(10 設問)が 44.4%、「自然事象についての知識・理解」(20 設問)が 57.0%と一部を除き、概ね良好な結構となっている。
- ・「科学的な思想・表現」の各設問について平均正答率を見ると、『光の屈折 (凸レンズ)』に関する問題が 74.8%と多くの生徒に理解されている (問七 (2))。一方『水溶液 (溶解度を読み取る)』についての回答は 24.4%と低く、質量%濃度を正しく求めること、温度と溶解度について正しい理解が不足している生徒が多いことがわかる (問六 (2))。
- ・「観察・実験の技能」については、『生物の観察 (顕微鏡の操作手順)』に関する問題が 88.0%と多くの生徒に理解されている (問一 (2))。一方、『状態変化 (蒸留)』に関する問題では 18.2%となっており、物質の融点や沸点から物質を区別することや、ガスバーナーの使い方に対する理解が不足している生徒が多いことがわかる (問五 (2))。
- ・「自然事象についての知識・理解」については、『光の屈折 (凸レンズ)』に関する問題が 88.0%と多くの生徒に理解されている (問七 (1))。一方『植物の仲間 (コケ植物、シダ植物)』に関する問題では 23.0%と低く、種子植物や種子をつくらない植物の体のつくりにはそれぞれさまざまな特徴があり、それに基づいて分類できることへの理解が不足している生徒が多いことがわかる (問二 (5))。

調査結果を踏まえた指導の工夫・改善

科学的な思考・表現について	○実験を行い、水溶液の様子をよく観察し、温度による溶解度の違いを実感することで、より理解が深まります。(問六 (2))
観察・実験の技能について	○生徒が実験方法を計画し、見通しを持って実験に取り込むことが効果的です。(問五 (2))
自然事象についての知識・理解について	○どんな植物があるのか、実際に外で観察したり、写真やインターネットで確認したりするとよいでしょう。(問二 (5))

英語

- ・英語は、調査生徒数 357 人にて実施をした。その結果、平均正答数 23.4 問、平均正答率が 66.7%、平均正答率が 60%以上の生徒は全体の 7 割弱を占めている。
- ・観点別の平均正答率については、「外国語の表現の能力」(15 設問) が 61.5%、「外国語理解の能力」(18 設問) が 59.5%、「言語や文化についての知識・理解」(22 設問) が 69.8%と概ね良好な結果となっている。
- ・「外国語表現の能力」の各設問について平均正答率を見ると、『文の大切な部分の正確な読みとり』に関する問題がともに 88.5%と多くの生徒に理解されている(問四(1)(2))。一方、『文と文のつながりなどに注意した文の記述』に関する問題の一部では 30.0%となっており、単語の綴りや語順が正しく、文のきまりに誤りのない英文の記述を苦手とする生徒が多いことがわかる(問八(2)(ウ))。
- ・「外国語理解の能力」については、「外国語表現の能力」と同様な結果である。
- ・「言語や文化についての知識・理解」については、『be 動詞の平叙文』に関する設問で 96.9%と高い正答率になっている(問一(1))。一方、『運用度の高い語』に関する設問では 35.9%と短い英文とそれに関連する絵や図を見て内容を把握し、適切な言葉を書くことを苦手とする生徒が多いことがわかる(問六(4))。

調査結果を踏まえた指導の工夫・改善

外国語の表現の能力について	○授業においては、英文を正しく書く練習をするとともに、文と文のつながりを意識した、まとまりのある「文章」を書く活動も必要です。その際、指導者は具体的でわかりやすい場面や状況を設定したり、場面や状況に合わせた表現を例示したりするなど、指導方法を工夫して授業を進めてください。(問八(2)(ウ) 英文)
外国語理解の能力について	
言語や文化についての知識・理解について	○指導する語は、具体的な場面や状況で適切に用いるようにして定着を図ることが大切です。また、「コミュニケーション能力の基礎を養う」とする観点から、授業の中でよく用いられる語については、言語活動の中で繰り返し触れながら定着させることが効果的です。(問六(4))